

『小樽緑丘』原料米の稲刈りを行いました

商大グッズ



稲刈り体験の様子



本学の販売する日本酒「小樽緑丘」の仕込みに用いるため今年6月本学学生・教職員有志の手により植えられた、酒造好適米「彗星」の稲刈りが、去る10月6日、秋山学長、学生及び教職員有志の手により行われました。

「彗星」を栽培して下さった「紅果園」園主寒河江仁氏によると、今年は豊作だとのことであり、当日は、たわわに実った黄金色の稲穂がこうべを垂れる中、皆で小1時間ほど心地よい汗を流しました。稲刈りは初体験という他の参加者に対し、子供のころ稲刈りの手伝いをしたという秋山学長は、手並みも鮮やかに次々と稲を刈り取って皆を驚かせ、また、作業終了後は、昼食をとりながら、寒河江氏を囲んで北海道の農業についての懇談も行われました。

終了後参加者からは、「初めての体験で楽しく、よい汗をかけた」、「新鮮な空気の中で仕事ができ、気持ちよかった」との声が聞かれ、今回の企画の主催者である相内教授によると、「小樽緑丘」の蔵元である田中酒蔵での日本酒の仕込みへの参加を既に企画しているとのこと。来年の3月にはまさに本学学生・教職員の手による「小樽緑丘」を味わうことができることでしょう。

地域活性化セミナー

「ダイガクも意外と役に立つ」を開催しました

9月29日(金) 本学ビジネス創造センターと地域貢献推進委員会が主催する地域活性化セミナーが紀伊国屋書店札幌本店インナーガーデンで開催されました。今回は小樽を代表するアーティストである安井顕太氏(ケースブローイング代表取締役)と角寿子氏(北の藍工房主宰)をゲストにお迎えして小樽商大の“活用法”に関する講演とパネルディスカッションが行われました。

講演では、海老名教授(ビジネス創造センター長)が、小樽のガラス工房12社との共同事業である「OTARUガラス工芸品の世界ブランド化プロジェクト」の報告を行いました。安井氏による小樽ガラスの興味深い解説を挟みながら、台湾で行われた展示会からのマーケティング分析や、小樽ガラスのイメージカラーを選定した過程が紹介されました。また、角氏は片岡教授(一般教育等)の化学研究室との間で「環境を考えた染色法」の共同研究を行っており、こうしたコラボレーションを行うに至った経緯や、染色法と化学との関わりについて、美しく染められた布をたくさん手にされながら説明されました。

講演後のパネルディスカッションでは、参加した約80

名の市民から、このような地域産業との連携が行われていることに驚きの声が寄せられ、「こうした実績を積極的に発信したほうがいい」とする意見や「これからも地域とのつながりを大事にしてほしい」「大学の敷居を低くしてもっと相談しやすくしてほしい」といった要望などが寄せられました。



当日はガラス工芸品と染織の展示会も行われました。



パネルディスカッションの様子。左から司会の大津助教、パネリストの海老名教授、安井氏、角氏、片岡教授。